



氏藏鎌馬辰監技務内

昨年 11 月に行はれた内務省土木關係主腦部技師の異動は非常時局の反映とは云へ斯界に對し非常な衝動を與へた。

而して東京土木出張所長より内務技監に榮轉したる辰馬鎌藏氏は河川關係の専門家として學識經驗に富み且つ上下に對する德望の高い人であるから、年齢は若いが一般から好感を以て迎へらるゝであらう。

辰馬氏は灘の名酒造家の出であるが、明治四十年東京帝大土木科を卒へると直に内務省に入り、淀川上流の瀬田洗堰工事に印象の深い河川工事の第一歩を踏み出した。其年の十二月兵役に服して入營し義務を終ると、四十二年淀川下流の安治川浚渫工事に當り、四十三年には九州に轉じ遠賀川改修工事に六ヶ年の經驗を得て、大正五年には東京土木出張所に轉じて利根川改修工事に従事し、大正七年から多摩川改修工事主任として七年間の功績を認められ、大正十四年歐米に出張を命ぜられ、滞歐中は主としてドイツの河川工事を視察した。

昭和三年五月名古屋土木出張所長に任ぜらるゝや、木曾川支流の犀川問題に就て行政的技術的に其手腕を認められて遂に昭和九年五月東京土木出張所に榮轉するに至つた。以來今日に至る迄の辰馬氏の努力は江戸川河水統制問題に於て窺はれるであらう。此等の問題は工事として他日稿を改めて紹介する事とし、茲には我國の動力、産業の資源に大關係ある河水の統制其他災害防止等に關し益々河川問題の重要性を認めらるゝ際の内務技監として新に辰馬氏を迎へた事を斯界の爲に幸慶として筆を擱く。